



令和7年度 農山漁村女性活躍表彰

受賞者取組資料集

海、山、里で
輝く女性に
花束を



主催：農山漁村男女共同参画推進協議会

概要

「農山漁村女性活躍表彰」は、我が国の農山漁村の女性のいきいきとした活躍やその環境づくりについて優れた活動を行う個人や団体を表彰しています。

その取り組みは、創意工夫にあふれる唯一無二で魅力的なものです。

今回、本年度の受賞案件をすべて収録した

「農山漁村女性活躍表彰受賞者取組資料集」を作成しました。

これまでの受賞者の皆様に実施したアンケートでは、受賞後の変化として「地域での認知度が高まった」「自分の活動に対する周りの人の理解が深まった」といった声をいただいております。

ぜひ、広くご活用いただき、女性の農山漁村における日本全国の多様な取り組みを多くの方に知っていただくとともに、農山漁村の女性自身や女性の活躍を後押しする地域の関係者の方々がさらに自信を持って活動を進める一助としていただければ幸いです。

令和8年3月 農林水産省経営局就農・女性課

選考のコメント

令和7年度の農山漁村女性活躍表彰事業では、6部門に28道府県から42事例の応募がありました。審査委員6名が審査基準に基づき厳正な選考を行い、各部門の受賞事例を選考しました。

A女性地域社会参画部門(個人)では、山口由美さん(埼玉県)が大臣賞を受賞されました。山口さんは、企業やホテル、大学との商品開発、カフェ経営などを通じて「越生のうめ」のブランド化を推進しています。審査委員会では、経営局長賞の中西真喜子さん(三重県)、協議会長賞の大島美智子さん(愛知県)を推す委員もおり頭を悩ませたのですが、山口さんは全国サミットを立ち上げるなどの優れたリーダーシップを発揮し、様々な主体とのコラボや梅の輸出にも取り組んでいるところを評価しました。

B女性地域社会参画部門(組織)では、味工房小諸すみれ(長野県)が大臣賞を受賞されました。同会は、農産物を加工して魅力を発信したいという思いから70名近い農村女性たちにより創設され、地域農業の振興と食育・地産地消推進のモデルを築かれました。審査委員会では、経営局長賞の幸の郷かほく(熊本県)を推す声もありましたが、多くのメンバーとともに合意形成を重ねて活動を継続している点を高く評価し、味工房小諸すみれに大臣賞を贈ることとしました。

C女性登用・組織参画部門では、比企地域女性農業委員・農地利用最適化推進委員連絡会(埼玉県)が大臣賞を受賞されました。同会は、女性登用推進に地道に取り組んできた結果、全国や県の平均より高い女性比率を実現し、さらに市町村を超えたネットワークにより新任の女性農業委員の支援につながっている点が高く評価されました。なお、局長賞の両総土地改良区(千葉県)、協議会長賞の清水景子さん(山梨県)の事例は、男性が庄

倒的に多い土地改良区からの貴重なエントリーであり、今後さらにこの分野を伸ばしていくきっかけになれば幸いです。

D女性優良ビジネス部門では、乾裕佳さん(大阪府)が大臣賞を受賞されました。乾さんは、経営者として明確な販売目標を立てて着実にそれを達成していること、農業の新たなビジネスのパイオニアとして課題を突き破り、挑戦をする姿勢が高く評価されました。経営局長賞の(株)光ファーム 篠塚朋子さん(茨城県)を推す委員もおりましたが、女性が経営主として活躍している点を評価して乾さんを大臣賞に選びました。

E女性新規事業・チャレンジ部門は、花坂薫さん(神奈川県)が大臣賞を受賞されました。花坂さんは、酪農の新規就農のモデル的な取り組みであること、また、生乳加工・販売による高付加価値化と、里山環境を活かす革新性を両立させている点が高く評価されました。審査委員会では、経営局長賞の(株)SATO FARM(青森県)を推す声もありましたが、経営の新規性とモデル性を高く評価し花坂さんに大臣賞を贈ることとしました。

F女性活躍応援・次世代育成支援部門では、(株)ジョージア園芸(広島県)が大臣賞を受賞されました。同法人は、女性が主体的に働ける環境づくりを行い、また、小学校での栽培指導も実施するなど次世代育成に力を入れている点が評価されました。

最後に、釜石湾漁業協同組合白浜浦女性部(岩手県)は、東日本大震災後に海藻の加工品開発に取り組み、復興のシンボルとなりました。震災から15年の節目でもあることから、これまでの活動に敬意を表し審査委員特別賞をお贈りすることとしました。本表彰事業に取り組んでくださった方々、また、各県や市町村、関係機関等のみなさまに厚くお礼を申し上げ、審査講評とさせていただきます。 審査委員長 岩崎由美子

審査委員プロフィール



岩崎 由美子

福島大学 行政政策学類 教授

埼玉県生まれ。早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。住民主体の計画づくり、農山村地域活性化、震災からの地域復興、農村女性起業などを研究。主な著書として、『食と農でつなぐ福島から』（岩波書店、共著）、『小さな自治体の大きな挑戦－飯館村における地域づくり』（八潮社、共著）、『成功する農村女性起業』（家の光協会、共編著）など。



五條 満義

東京農業大学国際食農科学科 准教授

全国農業会議所に8年間勤務後、1997年に東京農業大学専任講師。助教授を経て准教授。日本農業法学会副会長。伝統野菜の大蔵大根の復興を応援。著書に『家族経営協定の展開』（筑波書房）、『中国の大学と農村は今』（東京農大出版会）、『家族経営協定最前線』（全国農業会議所）など。過去に内閣府男女共同参画会議専門委員、政府の第2～4次の男女共同参画基本計画策定作業に加わる。



小川 理恵

一般社団法人 日本協同組合連携機構 (JCA)
基礎研究部長 主席研究員

一般社団法人日本協同組合連携機構(JCA)基礎研究部長主席研究員。博士(農学)。1997年に、前身である社団法人地域社会計画センターに入会。総務課長、企画調整室長を経て研究職に職種転換、現在に至る。研究分野は地域づくりと女性活動。主な著書に『魅力ある地域を興す女性たち』（農文協、2014年）、『JA女性組織の未来 躍動へのグランドデザイン』（共著、家の光協会、2021年）、『ダイバーシティJA だれもが活躍できる地域をめざして』（共著、全国共同出版、2024年）



平田 真一

有限会社 平田観光農園 代表取締役

1965年8月長野県生まれ。広島大学法学部卒業後、落合経営会計事務所に入社。その後、有限会社平田観光農園に就職。2006年7月に同取締役社長に就任、川西地区果実共同加工組合代表就任。2010年7月に長野県中野市に、株式会社果実企画を設立、取締役就任。2016年12月に株式会社イチコト設立、取締役に就任。2020年4月に川西地区果実共同加工株式会社を設立、取締役に就任(すべて現任)。全国農業会議所が事務局を務める経営者組織「農のふれあい交流経営者協会」副会長。



原 ゆきこ

税理士法人 共同経営センター 社員税理士

1968年生東京都出身。東京大学農学部農業経済学科卒業。夫の仕事に伴い、1998年より香川県在住。主婦業に専念した後、会計事務所に入社。学生時代よりの憧れだった農業経営者との触れ合いの中で、税理士資格の取得を決意。現在、顧問先は農業法人が多くを占めている。日本政策金融公庫の上級農業経営アドバイザー試験合格者、香川県新規就農・農業経営相談センター登録専門家として様々な農業経営者の相談に応じている。



池本 博則

株式会社ユニークピース 代表取締役社長

徳島県出身。2003年株式会社マイナビ入社。2016年同社執行役員 地域活性事業部長となり、2017年8月より農業情報総合サイト『マイナビ農業』を立ち上げる。日本の農業振興について官民双方へのサービス提供を通し取り組んだ。その後2023年5月末でマイナビを卒業し、2023年6月より株式会社ユニークピースを創業。現在も農業をテーマとした民間企業の事業開発や官公庁自治体における農業施策の支援など幅広く農業振興に取り組む。

表彰部門の紹介

令和7年度 表彰部門

A 女性地域社会参画部門（個人）

地域の農林水産業の振興及び農山漁村の活性化のための活動の中長期にわたり積極的に実施している個人(女性)の取り組み。



B 女性地域社会参画部門（組織）

農山漁村の女性が中心となった地域の農林水産業の振興及び農山漁村の活性化のための活動の中長期に渡り積極的に実施している団体・組織の取り組み。



C 女性登用・組織参画部門

政策・方針決定過程への女性の参画を推進するため、積極的に役員等への女性の登用や育成、その他の女性の活躍推進に取り組む個人(性別不問)や団体・組織の取り組み。



D 女性優良ビジネス部門

女性が農業、林業又は水産業の経営の中核を担い、経済的・社会的に優れた成果をあげている個人(女性)又は団体・組織の取り組み(必ずしも女性が農地法・会社法等上の代表である必要はない)。



E 女性新規事業・チャレンジ部門

女性ならではのアイデアに基づく新規事業の実施や自身の経営・活動のステップアップに向けて挑戦する概ね5年以内の個人(女性)又は団体・組織の取り組み。



F 女性活躍応援・次世代育成支援部門

農林水産分野における女性の新規就業や活躍を応援・支援する個人(性別不問)や団体・組織(行政機関を含む)の取り組み。



令和7年度受賞者紹介



- 農林水産大臣賞 女性地域社会参加部門(個人)**
埼玉県 越生町 **山口 由美**……………p6
- 農林水産大臣賞 女性地域社会参加部門(組織)**
長野県 小諸市 **味工房小諸すみれ**……………p11
- 農林水産大臣賞 女性登用・組織参画部門**
埼玉県 比企郡滑川町 **比企地域女性農業委員・農地利用最適化推進委員連絡会**……………p16
- 農林水産大臣賞 女性優良ビジネス部門**
大阪府 富田林市 **乾 裕佳**……………p19
- 農林水産大臣賞 女性新規事業・チャレンジ部門**
神奈川県 足柄上郡山北町 **花坂 薫**……………p22
- 農林水産大臣賞 女性活躍応援・次世代育成支援部門**
広島県 尾道市 **株式会社ジョージア園芸**……………p27



- 農林水産省経営局長賞 女性地域社会参画部門(個人)**
三重県 多気郡多気町 **中西 眞喜子**……………p7
- 農林水産省経営局長賞 女性地域社会参加部門(組織)**
熊本県 山鹿市 **幸の郷かほく**……………p12
- 農林水産省経営局長賞 女性登用・組織参画部門**
千葉県 東金市 **両総土地改良区**……………p17
- 農林水産省経営局長賞 女性優良ビジネス部門**
茨城県 猿島郡境町 **株式会社光ファーム 篠塚 朋子**……………p20
- 農林水産省経営局長賞 女性新規事業・チャレンジ部門**
青森県 西津軽郡鵜ヶ沢町 **株式会社SATO FARM**……………p23
- 林野庁長官賞 女性地域社会参画部門(組織)**
佐賀県 佐賀市 **佐賀市婦人林業研究会**……………p13
- 水産庁長官賞 女性新規事業・チャレンジ部門**
大分県 佐伯市 **水本 あゆみ**……………p24



- 全国農業協同組合中央会長賞 女性地域社会参画部門(個人)**
宮城県 加美郡加美町 **内海 光子**……………p8
- 全国漁業協同組合連合会長賞 女性地域社会参画部門(個人)**
宮城県 本吉郡南三陸町 **阿部 民子**……………p9
- 大日本水産会会長賞 女性新規事業・チャレンジ部門**
佐賀県 鹿島市 **松本 理絵**……………p25
- 農山漁村男女共同参画推進協議会長賞 女性地域社会参画部門(個人)**
愛知県 一宮市 **大島 美智子**……………p10
- 農山漁村男女共同参画推進協議会長賞 女性地域社会参画部門(組織)**
徳島県 吉野川市 **川島町生活改善グループ連絡協議会**……………p14
- 農山漁村男女共同参画推進協議会長賞 女性登用・組織参画部門**
山梨県 南アルプス市 **清水 景子**……………p18
- 農山漁村男女共同参画推進協議会長賞 女性優良ビジネス部門**
北海道 河西郡 芽室町 **鈴木 由加**……………p21
- 農山漁村男女共同参画推進協議会長賞 女性新規事業・チャレンジ部門**
富山県 魚津市 **稗苗 史絵**……………p26
- 審査委員特別賞 女性地域社会参画部門(組織)**
岩手県 釜石市 **釜石湾漁業協同組合白浜浦女性部**……………p15

A 女性地域社会参画部門(個人)



農林水産大臣賞

越生の梅を未来へ 人と地域をつなぐ、 女性農業者の挑戦

「越生(おごせ)の梅を、もっと多くの人に知ってもらいたい」。家族、地域、農業——そのすべてと向き合いながら、梅農家として、経営者として、そして地域の担い手として歩んできた山口由美さん。越生の梅を軸に、人と人、地域と未来をつなぐ取り組みが、着実な広がりを見せている。



山口 由美さん(山口農園)

埼玉県入間郡越生町。活動継続14年5カ月

嫁として、母として。地域に根を張った20年

埼玉県越生町で100年以上続く梅農家「山口農園」に嫁ぎ、3人の子育てや家族の介護、子どもの大病と向き合いながら、地域に根差した暮らしを続けてきた山口さん。義父が倒れたことを機に農園経営を引き継ぎ、女性農業経営者としての歩みを始めた。「越生の梅を知ってもらいたい」。その思いが、すべての原点となっている。

「越生べに梅」のブランド化と販路拡大

「私が最も力を注いできたのは、在来品種『越生べに梅』のブランド化です」。販路拡大には知名度向上が不可欠と考え、ロゴ作成や商標登録に取り組んだ。その結果、百貨店などへ販路が広がり、現在は無印良品のオンラインショップでも取り扱われるなど、全国規模で周知されるようになった。



加工品の自家製造で海外展開も

「種が口に残って食べにくい」という声をヒントに、JA出荷中心だった経営から一歩踏み出し、梅の加工品の自家製造を開始。種を取り除いた「おにぎり梅」や「万能梅みそ」は、梅が苦手な人や外国人にも好評を博した。全国コンクールで高い評価を受け、平

成28年に香港、翌年には台湾、その後フランスへと、海外展開も進めている。

畑をつなぐ。後継者育成と産地再生

高齢化や耕作放棄地の増加という課題に対し、農地を三段階に分類し、新規就農者へつなぐ独自の仕組みを構築。20~30代の若手後継者育成にも取り組んできた。収穫・加工体験事業は年間約1,500人が参加する規模に成長し、園内の「梅凛caffe」は、若者の挑戦を後押しする場にもなっている。さらに、高校・大学・企業との連携、子ども食堂や農福連携など、農業を軸にした地域貢献を展開。「全国ウメ生産者女性サミット」の立ち上げを通じ、全国の女性生産者をつなぐ役割も担ってきた。



未来へ向けた決意

今後は、樹齢60年以上の梅の古木を丁寧に管理し、高品質な梅を安定して届けられる農園を目指します。農園体験の充実や新商品の開発、販路拡大に取り組み、農業を軸に人と人がつながる場を広げていきます。越生の梅を未来へつなぐため、これからも地域とともに歩み続けていきます。



評価のポイント

- 在来品種「越生べに梅」を軸とした、住民・生産者を巻き込む産地保全の取り組み
- 全国ウメ生産者女性サミットを立ち上げ、女性生産者の全国的な連携を構築
- 香港・台湾・フランスへの輸出など、海外展開への挑戦
- 若手就農者の育成と定着を見据えた仕組みづくり



経営局長賞

ご縁が力に変わるとき 勢和で育まれた仲間と 地域づくり

「地域づくりは、仲間づくり」。

家業の農業に向き合いながら、人のご縁を大切に、仲間とともに歩んできた中西眞喜子さん。伊勢イモの畑から始まったその歩みは、議会、文化活動、そして地域づくりへと広がり、勢和の人と人を結び続けている。



中西 眞喜子さん

三重県多気郡多気町

家族とともに守り続けた農業の現場

昭和45年、結婚を機に多気町丹生に入り、家族とともに水稲と伊勢イモの生産に携わってきた。伊勢イモは約300年前からこの地で栽培されてきた伝統野菜で、手間がかかり、効率化が難しい作物でもある。気象変動の影響を受ける厳しい状況が続く中、今も家族とともに生産活動を続けている。生産の中心は次世代が担っているが、培ってきた技術は新しい研修生へも伝えられている。



「農業・農村のセールスレディ」として

平成11年、三重県農村女性アドバイザーに認定。県内外の女性農業者と交流を重ねる中で、仲間からかけられた「私たちは農業・農村のセールスレディ」という言葉が心に残った。作るだけでなく、消費者と生産者をつなぐ存在でありたい。そんな思いで活動を続け、代表や世話人としてネットワークづくりにも尽力してきた。



ご縁を力に、地域の中へ

農業と並行して、婦人会や食生活改善、社会教育、行政相談員など、地域の暮らしに関わる役割を担ってきた。頼まれごとを「ご縁」と受け止め、一つひとつ真剣に向き合う。その積み重ねが、新たな仲間との出会いを生み、活動の幅を広げていった。勢和村議、合併後は多気町議員として3期11年。地域全体の課題に向き合った経験は、その後の地域づくりの礎となっている。こうした経験を重ねる中で、地域の歴史や人の営みを次世代へつなぐ拠点として、後に一般社団法人「ふるさと屋」の立ち上げにも関わることとなった。

舞台が結んだ、誇りと絆

地域活動を続ける中で、なじみの顔が減り、農にまつわる風習が失われていくことに寂しさを覚えた。そこで立ち上げたのが、立梅用水を築いた西村彦左衛門を題材にした「劇団ほてい葵」だ。大道具も衣装も手づくり。世代を超えた団員が一丸となり、30年続く舞台は、地域の誇りと人のつながりを育んできた。

未来へ向けた決意

議員退任後は立梅用水土地改良区の理事として、また一般社団法人ふるさと屋の代表として、みんなの活動拠点を作り、見守り活動や獣害対策、防災などに取り組んできました。令和4年からは農村RMO協議会の会長として、多様な団体と将来ビジョンを描いています。「地域づくりは仲間づくり」。これからも仲間とともに、「ここに住んでよかった」「住みたい」と思える勢和を、次の世代へつないでいきたいです。



評価のポイント

- 長年にわたって「農業・農村のセールスレディ」として消費者と生産者をつなぐ存在であり続けていること
- 多気町議員や土地改良区理事など地域の意思決定の場に参画しつつ、「劇団ほてい葵」の団長として30年以上にわたり文化をつなぐ活動も行ってきた点